

## 2015年夏期セミナー印象記

河崎郁夫\*・志岐正彦\*\*

Ikuo KAWASAKI\* and Masahiko SHIKI\*\*

2015年7月10日(金)(株)小森コーポレーション6階大会議室で「アイデアや技術の組合せによる利益創出」と題し、(一社)日本印刷学会主催による夏期セミナーが小泉主査の開会挨拶でスタートした(写真1)。昨年は台風の影響で急遽開催が中止になった為、2年振りの開催である。今回は、デザインで広がる印刷表現、各工程でのムダ取り、保全技術、オンデマンド、表面加工技術、物流といった切り口で発表テーマを選定した。



写真1 会場風景

技術を組み合わせることで時代が求めるビジネスモデルを検討する。以下、順次6件の講演の概要を説明する。

### 1. デザイナーと印刷会社を結ぶデザインのひきだし

(株)グラフィック社 デザインのひきだし編集部  
津田淳子氏

デザイナーの発想と印刷技術の組み合わせによって、印刷表現はまだまだ広がる。その思いから、グラフィック社で刊行しているのが『デザインのひきだし』である。主にデザイナーを読者ターゲットとした書籍であり、折る、抜く、削る、貼る、凸凹させる等の紙に付与するあらゆる特殊加工が豊富な実物サンプルとともに紹介されている(写真2)。



写真2 津田氏

特に印象的なのは、蛍光色に関する特集である。ある蛍光インキに対し、別の色の蛍光インキ、あるいは白インキ

を混ぜ合わせる事で、新たにどのような色が生み出されるのかを検証、紹介するという企画。一見、蛍光色同士を混ぜ合わせると、より蛍光感の強い色が生まれそうであるが、実際には2色を混ぜ合わせると蛍光色ではない、鮮やかな澄んだ色が出来上がる。他にも、紙幣に使用されているような「透かしインキ」や、糊を塗布した印刷面に透明ビーズを敷き詰めた「ビーズ印刷」等、創意工夫に溢れた特集が数多くあった。アイデア次第で、印刷の可能性はまだ広がる余地が十分にあると感じた。

### 2. 省資源の徹底で印刷ビジネスに活力を

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)  
小林史和氏

印刷業界における省資源を目的として、5つのソリューション「完全無処理サーマルCTPシステム」「環境配慮型サーマルポジCTPシステム」「湿し水・印刷関連薬品」「ワークフ



写真3 小林氏

ロー & スクリーニング技術」「Eco&Fast Printing (印刷現場改善支援プログラム)」を紹介された(写真3)。これらは環境保護といったコンセプトのみならず、企業としてもコストメリットが生じ、収益性を大幅に高められる。中でも印刷コストが高いのは用紙・インキであるが、これらの削減のアプローチについて様々な手法が紹介され、大いに参考になった。

最初にできる事として、① 湿し水を適正使用する事で10%程度のインキ量削減 ② ローラーにグレーズ処理を施し印刷機のコンディションを適正に保つ事で損紙の削減と工程時間の短縮があげられる。今回の提案内容を取り入れる事で効果は何倍にも高まると思われる。今後は「コスト」の前に、まず「省資源」に対する意識を高く持つ事が、従来とは異なるコストダウンへのアプローチを創造し、それが企業価値向上に繋がっていくと思われる。

\* 東洋インキ(株)

(〒350-0803 埼玉県川越市栄1番地)

\*\* 共同印刷(株)

(〒112-8501 東京都文京区小石川4-14-12)

### 3. 印刷現場の予防保全

(株) 小森コーポレーション サービス技術本部  
川名茂樹氏

印刷機械の突発的な故障が生じると修理代金のみならず人件費等、計画的な修理と比較して多くの費用が生じてしまう。突発的な故障が生じる前に、計画的な点検やメンテナンスを行うことでマシンライフの延長と損害を軽減することを目的とした予防保全として小森式予防保全 (KPM) を紹介した (写真4)。KPM 活動では、印刷現場全体の問題点をつかむこと、そして機械の異常に気付くことが重要なポイントとされ、5Sや機械メンテナンスなど現場の一人ひとりの意識改革が徹底される。実際に KPM 活動を取り入れた企業では、活動以前と比較して平均 60%以上の機械故障が減少し、その結果、故障による生産時間のロスが減少し、生産性が向上している。この様に印刷機械の小さな異常を見逃さず、大きな故障を未然に防ぐためには、一人ひとりが当事者となり、印刷機械に関する知識やメンテナンス方法を身に付ける意識が大切だと感じた。



写真4 川名氏

### 4. オンデマンド印刷ビジネス ~プロモーションのオンデマンド化~

(株) 電通オンデマンドグラフィック  
第一コーディネーター事業部事業部長 野澤康文氏

広告市場における印刷領域は大変厳しい状況で、広告主は予算縮小傾向にある。大量に制作する印刷物は減少し、今後も回復することは期待できない。しかし、オンデマンドプリントのニーズは確実に増加し、今後も拡大市場であることは間違いない。「必要な物」を「必要な時」に「必要な数」だけ提供できるオンデマンドサービスは、極めて有効なプロモーションな手段であり、進歩が目覚ましいデジタル印刷とそれを運用するプラットフォームで多彩なニーズにワンストップで対応している。



写真5 野澤氏

広告主の問題解決を最優先に実現し、さらに付加価値を高める対応力強化で新たなビジネス領域の拡大へとつながっていく。特にデジタル印刷では最新技術やアドバンテージを理解し、最適なソリューションで最大の効果を出すことが重要である。同時に「プリントデバイス」と「プラットフォーム」の相乗効果でさらに付加価値を高め継続

性と収益を確保できる。今後のプロモーションにおいて重要な役割になるだろう (写真5)。

### 5. 表面加工により印刷物はどこまで付加価値を高められるか?

(株) 太陽堂成晃社代表取締役 宮本武紀氏

光沢加工会社が印刷をする  
と今までにないような高付加価値を生み出せることを多彩なサンプルを提示しながら、光沢加工の基礎知識から高付加価値印刷物紹介までを紹介した (写真6)。



写真6 宮本氏 (左側)

○キーワードは高級化、個性化、耐久化「光沢加工」とはずばり、印刷物の表面に合成樹脂をコーティングしたり、フィルムをラミネートしたりすることにより、艶や強度を出す加工方法のことをいう。印刷物の加工度を高め、付加価値を上げるうえでなくてはならない仕上げ工程となっている。技法として、樹脂を塗布する「光沢コート」・樹脂を塗布してプレスする「プレスコート」・紫外線硬化タイプの「UV ラミネート」・フィルムを熱圧着する「光沢ラミネート」があり、技術革新によって新加工法が次々と開発されている。

○廃棄物処理と再生化への取り組み等、消費者に何よりの安心を届ける為、環境保全には万全を期している。

「より美しく、より強く」をテーマに素材から変えて印刷物を個性的に演出していくことは、マーケティング上の課題を解決する有効なソリューションの一つとして育っていきと思われる。

### 6. RFID 最新動向と今後の展開

アールエフ・テクノロジー (株) 代表取締役  
遠藤貴則氏

RFID 関連最新動向とこれを理解する為には是非知っておかなければならない基礎知識として RFID 作動原理、用途形状による分類、RFID の主な周波数とその特徴、周波数別 IC タグの形状、アンテナ構造・材質等を紹介した (写真7)。



写真7 遠藤氏

1979年以降の RFID システムの歩みに沿って説明する。日本ではバーコードが廉価で何でもできてしまっているのが RFID 普及に影響している。しかし最近では、スマホ等の携帯電話に RFID システムが搭載され始め、新たな動きもでてきた。この規格は NFC と呼ばれソニーとフィリップス (NXP セミコンダクター) が共同開発し、国際標準

## 印象記

規格として認証されている。また、RFID用アンテナの製造方法には印刷法以外にアルミニウム、銅などのエッチング、アルミニウムの打ち抜き、銅などの蒸着等があり、その中で銀や銅の印刷での製造方法はかなり有望となってい

る。最後に市場拡大が期待できる実用化されたアプリケーションをいくつか紹介されたが、知らない間にすでに多くのRFIDが身近に浸透してきていることを実感した。